（別記様式１-1）

琉　球　大　学 動 物 実 験 計 画 書

学　　長　　殿

|  |  |
| --- | --- |
| 関連する動物実験計画の承認番号：　 | □　試験・研究　　　　□　教育・実習 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 提出年月日 | 年　　　月　　　日 | 受付年月日 | 年　　　月　　　日 | 受付番号 |  |
|  |
| 課 題 名 |  |
|  |
| 目 的 |  |
| 動物実験責任者 | フリガナ |  | 所属 | 職名等 |
| 氏　名 |  | TEL:  |  |
| e-mail |  |
|  |
| 飼養保管施設 及び動物実験室 | 飼養保管施設 |  | 動物実験室 |  |
| 実験実施期間 | 計画承認後すぐに開始　　/ 計画承認後の　　　 　　　年 　月　　～ 　　　　 　　　年 　月 |
| 使用動物種 |  |
| 安全管理上、法令順守上注意を要する実験(該当項目をすべて■) | □　感染実験 安全度分類: □ BSL1 □ BSL2 □ BSL3　□　特定病原体等使用□　遺伝子組換え生物等使用実験 区分: □ P1A □ P2A □ P3A□　承認済み（承認番号および承認期間:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ）□　申請中あるいは申請予定（承認予定時期: ）□　細胞移植実験□　放射線使用実験 　　　　　　　使用機器: □ マイクロX線CT装置　□ X線照射装置□　化学発癌・重金属実験（安全対策等：　　　　　　　 ）□　麻薬（麻薬研究者免許証番号および有効期限: 　）□　向精神薬（薬物名:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ） |

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 使　用　動　物（必要に応じて行を追加したり、セルの幅や高さを変更したりして記入すること） | 動 物 種 | 系　統 | 性　別 | 匹　数 | 微生物学的品質 | 入手先（導入機関名） | 備　考 |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 学長承認欄 | 承認: 20（ ）年 月 日 |
| 承認番号: A　　　　　　　　　　　　　　　　号琉　球　大　学　長 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 動物実験を必要とする理由(選択項目を■) | □ | 1. 検討したが、動物実験に替わる手段がなかった。 |
| □ | 2. 検討した代替手段の精度が不十分だった。 |
| □ | 3. その他 （具体的に記入） |
|  |
| 想定される苦痛のカテゴリー(選択項目を■) | □ | A.　脊椎動物個体を用いない実験、あるいは無脊椎動物を用いた実験 |
| □ | B. 脊椎動物を用い、動物に対してほとんど、あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験 |
| □ | C. 脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験 |
| □ | D. 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛みを伴うと思われる実験 |
| □ | E.　無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い、またはそれ以上の痛みを与えると思われる実験 |
| 動物の苦痛軽減、排除の方法(該当項目をすべて■) | □ | 1. 短時間の保定・拘束および注射など、軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない。 |
| □ | 2. 麻酔薬・鎮痛薬等の使用 （具体的薬剤名及びその投与量・投与容量および経路を記入する。） |
| □ | 3. 動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとるなどの人道的エンドポイントを考慮する。（人道的エンドポイントの具体的な内容を記入する。）  |
| □ | 4. 想定される苦痛のカテゴリーはDだが、人道的エンドポイントを設定できない。（人道的エンドポイントを設定できない理由や、人道的エンドポイント設定に代わる配慮などを記入する。） |
| □ | 5. その他 （具体的に記入） |
| 安楽死の方法(該当項目をすべて■) | □ | 1. 麻酔薬等の使用 （具体的薬剤名及びその投与量・投与容量および経路を記入する。） |
| □ | 2. 炭酸ガス |
| □ | 3. 中枢破壊 （具体的に記入） |
| □ | 4. 安楽死させない□ 学内での飼養・保管を継続して他の動物実験計画で使用する、あるいは使用予定である□　学外の施設等で飼養又は保管されている動物であり、動物実験責任者が所有又は占有する動物ではない□　野生動物□　生息地での捕獲および実験処置後のリリース、あるいは生息地での動物の観察□　捕獲後、学内での飼養又は保管下で実験を実施するが、実験終了後に捕獲場所にてリリースする□　その他 （理由を具体的に記入） |
| 動物死体の処理方法(選択項目を■) | □ | 1. 学内飼養保管施設に委託 （各飼養保管施設が定め、琉球大学が承認した処理方法による処理） |
| □ | 2. 外部業者に直接依託 |
| □ | 3. 標本学、分類学のための生物標本、自然史標本として保管 |
| □ | 4. その他 （具体的に記入） |
| その他必要または参　考　事　項 | （関係法令への対応、関連する承認済み動物実験計画や他に申請中の動物実験計画との関係、学内の関連委員会への申請状況などを記入する。) |

|  |  |
| --- | --- |
| 実験計画と方法 | 実験計画の概要 （実験計画と方法について、その概要を記入する。フォントサイズは9 pt以上。） |
| 実験方法 （動物に加える処置、使用動物数の根拠を具体的に記入し、「想定される苦痛のカテゴリー」や「動物の苦痛軽減・排除方法」等と整合性をもたせる。フォントサイズは9 pt以上。） |

|  |  |
| --- | --- |
| 研究計画と方法 | 実験方法（続き） （3-1の1ページに収まらない場合に使用。9 pt以上。不要の場合は空白のままとする。） |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 動物実験実施者氏名 | フリガナ | メールアドレス | 所属（部局・研究室/講座等）Tel | 職名身分等 | 教育訓練受講認定（選択項目を■） | 計画に関連する動物実験等の実施経験（必要に応じて記入） |
| （動物実験責任者） |  |  |  |  | □済□申請中 |  |
|  |  |  |  |  | □済□申請中 |  |
|  |  |  |  |  | □済□申請中 |  |
|  |  |  |  |  | □済□申請中 |  |
|  |  |  |  |  | □済□申請中 |  |
|  |  |  |  |  | □済□申請中 |  |
| リストの最初の行に動物実験責任者の情報を記入すること。必要に応じて行を追加してよいが、学部実習のように人数が多い場合は参加者リストを別途準備して添付すること。 |
| 備考（選択項目を■） | **上記の動物実験実施者（責任者を含む）以外に**、・計画に参加する客員研究員、協力研究員、非常勤講師や学外研究者などの、**受入教員**・計画に参加する学生・大学院生の、**指導教員** （本学における医学部教育の一環としての研究、学部の卒業研究や学位研究を指導する教員）・計画に参加する若手研究者の**メンター** (本学において、研究実施支援や、共同研究の責任者を務める教員)・計画内の動物実験等には従事しないものの、動物使用に深く関与する、学外の学術研究機関、教育機関、公的機関あるいは企業等に属する者 (計画に関連して獣医療を担当する獣医師、共同研究の研究分担者、受託研究の委託者など)がいる場合は、該当者有を■とし、氏名・所属・職名等、および所属連絡先（メールアドレス）と役割の概要を記載してください。□　該当者有 |
| 計画書申請の実務担当者 | （動物実験責任者以外に、計画書申請の担当者がいる場合に記入）氏名・所属・メールアドレス・内線番号： |
| 添付書類 | （計画書に添付する書類の内訳、概要等について記入） |